



2011年度 国際政治 期末試験講評

今回の問題文は下記の通りでした。

〔問題〕

- (1)第2次世界大戦を機に成立した「自由貿易体制」の概要について説明せよ。
- (2)現行の自由貿易体制が、21世紀前半の世界においてどう変化し、またどのような点で変化しないかを予想し、さらにこの体制が、21世紀前半の世界において、いかなる機能を果たすかについて考察せよ。
- ※解答は、講義の内容をふまえること。また採点は、解答の具体性と論理性、とくに(2)に関しては論旨に説得力があるかを重視する。

I. 答案の作成方法について

最初に、どのような手順で答案を作成すべきだったか、具体的に見てゆきます。

(1)問題文を読み、出題者の意図を理解する。

- まず(1)については、すなわち文字通り受け取ってもらえばよいのですが、「自由貿易体制」について、その概要を尋ねています。すなわち、自由貿易そのものの定義や、自由貿易体制が成立した背景や原因、また自由貿易の目的については、とくに訊いていません。したがって、それらを長々と論じても、大きな得点にならないと推定されます。ここでは、あくまで「体制の概要」を説明しなければなりません。
- 続く(2)については、21世紀前半の世界において、この自由貿易体制がどう変化し、またどう変化しないかの「予測」がポイントです。21世紀前半とは、当然ですが西暦2001年～2050年を指しますから、過去(2001年～2011年)において、実際に生じた変化だけを論じるのでは不十分です。そのことは問題文の「予想せよ」という言葉からも明らかでしょう。つまり「未来がどうなるかを想像する」ことが求められているのです。
- さらに「世界において」という文言も重要です。すなわち、自由貿易体制が今後、世界全体にいかなる影響を及ぼすかが問題であって、日本やアメリカ、中国などの個別の国家の経済活動に、どのように影響するかだけを論じても、こちらの質問に正しく答えていないことになります。後述しますが、たとえば「自由貿易体制のもとで、日本経済がどう変化するか」をいくら論じても、答案としては0点です。
- さらに(2)では「体制がどのような点で変化するか」「体制がどのような点で変化しないか」「体制がいかなる機能を果たすことになるか」の3点に言及しなければ、解答としては不完全ということになります。
- なお、解答全体を通じての注意点ですが、「講義の内容をふまえること」が必要です。つまり自由貿易体制について、「講義でどのように説明したか」を問うています。したがって「自由貿易体制」の具体的に意味する内容についても、自分で勝手に想像するのではなく、講義での説明に沿ったかたちで解答しなければなりません。また解答にあたっては「具体性」が求められますので、抽象的にその意味を説明するのではなく、具体例を挙げながら説明しなければなりません(挙げる例じたいは、講義で説明した例と同じである必要はありませんが)。
- また80分という短い時間で、これだけ数多くの論点をきちんとカバーできるかどうかは、講義をきちんと聴き、それを理解していたかに加えて、解答に先立ち「答案構成」をきちんとできるかどうかにかかっています。ではその点につき、次項でみることにします。

(2)必要と思われる論点を(紙に)書き出す。

- まず、講義で話された内容を思いだしてください。私は、自由貿易体制を「金融部門」と「貿易部門」により構成されると述べたうえで、前者をブレトン・ウッズ体制(IMF・IBRD体制)、後者をGATT・WTO体制として説明しました。
- そのため(1)についてはこれら2つ、すなわちブレトン・ウッズ体制とGATT・WTO体制について、それぞれ説明しなければならないはずですが、これらの片方しか説明していない答案は、当然ながら大き

く減点されることとなります。

3. なお具体的な内容については、講義レジュメの56ページから59ページにかけて書いてありますので、そちらを要約すれば十分です。
4. (2)については、解答者ごとに考えは異なるでしょうから、それぞれ独自の論点を立ててもらって構いません（後述の解答例は、あくまで一例です）。ただし上述の通り「変化するであろう点」「変化しないであろう点」「いかなる機能を果たすかの予想」をすべて網羅する必要はあります。

(3)答案全体の論理構成を組み立てる。

1. まず、設問が2つに分れていますから、答案も2つに分けて書くのが適当でしょう。
2. (1)については、さらに金融部門と貿易部門に分けて書いてもらって構いません。また(2)についても「変化する点」「変化しない点」「いかなる機能を果たすか」のそれぞれについて、段落わけをするなどの工夫をする必要があります。
3. また問題文に指定したとおり、答案全体として論理性と具体性が必要となりますから、そのような答案になるように、論理的で、かつ具体的な論点も含めたうえで、読みやすい答案に仕上げなければなりません。とくに(2)については、論旨に説得力が必要なことも、問題で指定した通りです。
4. なお採点に際しては、いつも通り「きちんと段落わけができていないか」「全体としてまとまりのある構成となっているか」といった面からもチェックしました。思い付くままにダラダラと書き並べたような答案は、当然ながら減点しています。

(4)実際に答案を書く。

(省略)

(5)きちんと読み直し、おかしな所がないかチェックする。

1. この作業をきちんとすれば、誤字や脱字などはかなり減るはずなのですが、誤字を理由に、減点した答案も少なくありませんでした。もったいない話です。
2. また、日本語として意味が通っていない答案も、複数枚見つかりました。これも一度、最初から読み直してみれば、すぐに気づくはずなのですが。

II. 期末試験の採点について

(1)採点に際しては、最初に下記の諸点に留意しつつ、大まかなチェックを行いました。

1. 設問に対して、きちんと解答をしているか。

→問題文をきちんと読めていない答案は、大きく減点しています。その判断は「自由貿易体制の概要」をきちんと説明しているかや、21世紀前半の（日本やアメリカではなく）世界において、この体制がどうなるかをきちんと論じているか、などから行いました。

換言すれば「自由貿易体制がなぜ成立したか」だけを書いてあるような答案や、「**「昨今話題の TPP 交渉の結果が、日本の農業にいかなる影響を及ぼすか」**だけを長々と論じたような答案には、**ほとんど点を与えていません**。なぜならそれらは「こちらの質問に答えていない」からです。

2. 論旨の明快さや論理性が、大学生にふさわしい水準に達しているか。

→論述問題を採点する際に重視されるのは、「答案構成がきちんとできているか」です。したがって、一読して「何が言いたいのか、よく意味の分らない」答案は、この答案構成が不十分と判断し、大きく減点しました。また、段落分けがきちんとなされず、ダラダラと改行もなく書き続けている答案も、同じ理由で減点の対象としました。

(2)つぎに、以下のようなポイントをきちんと押えているか、チェックしました。

1. 解答の分量が不足していないか。反対に無駄な記述が含まれていないか。

試験時間は 80 分あるわけですから、それなりに分量が書かれていないと、全体としての評価はさがります。また上述のとおり、出題と全く無関係の事柄がいろいろ書かれている場合も、やはり評価は下がります。「書いておけば損にはなるまい」と考えたのかもしれませんが、結局「何が言いたいのか、よく意味の分らない」答案になるだけですので、全体としての印象は悪くなります。「求められる知識を、論理的に、かつ過不足なく書く」ことを心掛けて下さい。

ちなみに書き終わっていない「未完結の答案」も、採点はしましたが、それなりに減点してあります。

2. 「基本的なミス」を犯していないか。

たとえば、現在の主要国の通貨が「固定相場制」で維持されているとか、GATT が過去と同じように存在し続けているとか、現在の円ドル相場が 1 ドル = 120 円であるとか、基本的な事実について誤認しているものについては、それなりに減点しました。

(3)最後に、誤字脱字など、形式的なミスについてチェックをし、あまりに酷いものについては減点しました。

こう書くと必ず、「読めればいいのではないですか」といいます学生が出てきますが、それでは同じように、誤字脱字だらけの履歴書やエントリーシートを、就職活動で提出したら、どういう結果になるかを考えてください。試験中は辞書を引けないので、ある程度までは大目に見ますが、あまりに酷いものは、減点の対象としています。ちなみに、今回の試験で目についたのは「部間」「輸出入」「不可決」「未発行（未発効が正しい）」「廃止」「困乱」といった誤字でした。

ちなみに接続詞として「なので、」から書き始める文（例：AはBである。なので、CはDである。）もよくみかけましたが、正式な文章において、文頭に「なので」を置くのは、まだ一般的ではありません。今回は減点しませんでした。就職の書類などで書くのは危険ですので、使用しない方が無難です（あと 15 年たてばどうなるか判りませんが）。代りに「そのため」「したがって」「ゆえに」などを使って下さい。

また枚数は多くありませんでしたが、「です・ます」調と、「だ・である」調が混在している答案もありました。これも減点対象です。論述答案における基本中の基本ですから、とくに気をつけて下さい。

(4)その後、加減点や裁量点なども合算して、最終的な成績を算出しました。答案がボロボロでも、加減点のおかげで A 評価になった人がいる一方、答案そのものは素晴らしいのに、加減点により C になってしまった人もいます。したがって、成績表に A がついていても慢心せず、また C だったとしてもガツカリせず、今後もよい答案が書けるよう、精進して下さい。

なお自分の答案について、より詳しいコメントや指導を希望するひとは、sito@cc.matsuyama-u.ac.jp まで連絡をもらえれば随時対応します。

3. 成績分布について

①履修登録者全体（講義に一度も出席しなかった者も含む）における成績分布

A : 28.0% B : 6.7% C : 17.1% X : 28.9% 無資格・欠席 : 19.2%

②期末試験受験者における成績分布

A : 34.7% B : 8.3% C : 21.2% X : 35.6%

4. 解答例

(1) 1940年代後半に成立した自由貿易体制は、大きく分けて「金融部門」と「貿易部門」とに分かれる。このうち前者は、国際通貨基金（IMF）と国際復興開発銀行（IBRD）によって担われ、後者については戦後永らくGATT（貿易と関税に関する一般協定）により担当されてきた。

IMFは、外国為替制度を安定させるとともに、加盟国の貿易収支の不均衡などを調整するため短期的に融資する目的で、設立された国際機関である。IMFの設立者たちは、この機関に「為替取引の自由化」を促進する機能も付与したが、その背景には、戦前期の保護的為替管理の再来を防ぎたいとの反省があった。一方、IBRDは、大戦で荒廃した世界を復興するため、各国に長期的に国内開発資金を融資する役割を担ってきた。そして、先進国の復興が成し遂げられたあとも、開発途上国などに開発資金を融資しており、いまでは「世界銀行グループ」の一員となっている。

貿易部門については、当初、国際貿易機関（ITO）を設立して、自由貿易（自由・無差別・多角・互惠主義）の実現を図る計画であったが、同機関が未成立に終わったため、暫定的に発足していたGATTが、自由貿易の実現のために活動する機関となった。GATTは多角的貿易交渉（ラウンド）と呼ばれる国際会議を開催し、各国の関税の低減のみならず、非関税障壁の撤廃などにも力を尽した。そして1995年に世界貿易機関（WTO）が発足すると、GATTは発展的に解消された。そのため、今日の世界で自由貿易原則の推進に努めているのはWTOであるが、この機関は前身のGATTとは異なり、統一的な紛争処理手続き（DSB）を備えるなど、GATTより進歩した組織となっている。

(2) 20世紀後半の世界において、自由貿易体制は各国間の経済取引の拡大と発展を促進してきた。この傾向は21世紀に入っても変わることなく、さらに深く広いレベルで各国の貿易をコントロールするであろう。それは、中国やロシアなどが続々とWTOに加盟していることから容易に推測できる。このコントロールのレベルの拡大と深化という趨勢は、すでに20世紀から始まっているが、21世紀になっても変わらず継続すると予想される。

一方で、新たな動き（変化する点）も見られる。20世紀後半の世界は、上に述べたように、世界規模の「多角的貿易交渉」により自由貿易を発展させてきた。しかしドーハ・ラウンドの停滞に見られるように、21世紀は、同じやり方が通用しなくなっている。むしろ最近、各国がFTA（自由貿易協定）の締結交渉やTPP交渉を進めていることに表れているように、二国間や地域ごとに結ぶ条約によって、個別に自由貿易化が進行するという現象がみられる。これは21世紀になって表れた新しい傾向であり、今後も世界各地で、それぞれ進んでゆくと考えられる。

最後に、このような自由貿易体制が、21世紀前半の世界においていかなる機能を果たすかであるが、各国国民の経済水準の向上に資することはいうまでもない。それに加えて指摘したいのは、自由貿易体制の「紛争抑止機能」である。各国間の貿易が拡大深化し、相互依存が深まることで、各国はその関係を断ち切るような決定的な対立に踏み切れなくなるであろう。つまり1930年代の世界が、保護主義的貿易政策をとったことで戦争に突入して行ったのとは逆に、自由貿易により各国が密接に結びつくことで、全面的な衝突が起きにくくなるのではなかろうか。最近の日中間の対立などを観ると、そこまで楽観はできないかもしれないが、自由貿易体制は、全般的趨勢として、そのような機能をはたすのではないかと予想される。

以上

※これはあくまでも「解答例」であり、この通りに書かねばならないわけではない。